

教材名 「誠の碑」 (光文書院 4年 p.176「生命の尊さ」)

1. 本教材について

この話は東京都のある駅のすぐ脇にある踏切での事故(2007年)をもとにしたもの。宮本巡査は、遮断機が下りた踏切に入った女性を救ったが、自分は電車にはねられて命を落とす。そのことを忘れないようにと「誠の碑」が建てられている、という話。

▼この教材文では状況の説明が乏しいので問題解決的な思考が難しい。例えば、女性が踏切へ入ったわけ、“危険をかえりみず”の状況、命を落とさない他の選択の可能性・・・などの疑問は残る。それらを不問にして褒め称えることはできない。また、「きけんをかえりみず、人の命をすくった人の話です。」と、自己犠牲を賛美し価値あることとして学ばせることは、生命と人権を大切にす教育の観点から問題がある。

2. 本教材を扱う際に、特に注意すべきだと考えたこと

○自己犠牲という一つの価値観に導かれないようにしたい。

そのために、宮本さんの行為や心にとらわれない、別の視点からの授業展開を工夫する。

○下記は、主眼を ～進んできた安全対策、命を守る人びと～ とする授業案である。

3. 指導過程

	子どもの活動や教師の発問等	留意点
導入	・教材文を読む。	
展開	・思ったことは？ (予想される意見や感想) 宮本さんが命を落としたことへの感想 再発防止について ・踏切事故を防ぐための人々の努力～ ～進んできた安全対策について調べる。 ・命を守る人々について考える。	事故に至る状況については、掲載文では不確かであることを踏まえる。 鉄道会社が掲載している踏切事故防止対策を検索する。(踏切非常ボタン、障害物検知装置、踏切の廃止—地下化・高架化) 自己犠牲の美談ではない、事実の話として。
まとめ	・授業の感想を書く。	

4. 参考資料

○踏切における交通安全対策(内閣府のHP) ○踏切事故防止(JR西日本のHP)